

静岡
SHIZUOKA

まちづくりと公共交通

～富士市のDMV導入構想～

富士市は、1世帯あたりのマイカー保有台数が全国で20位前後という自動車のまち。「げた履き代わりに自動車を使う」と市民が自嘲するほど、移動手段は自動車に強く依存している。今後、マイカーとともに育った世代が高齢化していく中で、高齢ゆえに運転をあきらめなければならなくなったとき、自動車に代わる交通手段（＝公共交通）がなかったらどうなるのか。将来の超高齢社会を見据え、富士市では「公共交通再生」に向けた取り組みを積極的に展開している。

その切り札となっているのが「DMV」である。きっかけは約20年前にさかのぼる。1988年3月、「在来線と接続されていない」という特殊事情を抱えたまま、新幹線新富士駅が開業したことだ。すぐに、新富士駅―富士駅（在来線）の接続検討が始まった。身延線の延伸、新交通システムの導入等、数多くの案が検討されてきた。しかし、費用対効果や採算面に疑問が残り、第一歩が踏み出せない。「新富士駅―富士駅の接続」は、長年の懸案事項になった。

その懸案事項を解決するのがDMVだ。新富士駅―富士駅間を、貨物の線路を利用して接続。それだけでは終わらない。そ



今年1月、一般市民を乗せて実施した「DMVデモ走行」

こから市内中心部の大通りを利用して、分散した中核エリアを結び、さらに東南部を走る岳南鉄道に乗り入れて既成市街地にもアクセス。終点駅から再び南下し、東田子の浦駅に到達。既存のストックを有効に活用して道路と線路を自由に行き来し、鉄道駅や中心市街地を継ぎ目なく結ぶ構想を打ち出した。局面（新富士駅―富士駅間）だけではなく、大局を見たことがこの構想の最大の特徴である。同市では、DMVが全国へビジネス展開したときに速やかに導入できるよう、準備を進めているところだ。

昨今の都市交通は、単なる移動手段としてだけではなく、都市力を高めるための手段として考えることが必要である。昨年度、富士市は市制40周年の記念事業としてDMVのデモ走行を実施した。一般市民を乗せて富士山をバックに走った「ねらい」は、DMVを広く市民に知ってもらい、まち全体で公共交通を考えていくことが重要だと考えたからである。

DMVを「まちづくりの手段」として位置づけた富士市の取り組みが、新たな一歩を踏み出した。

▶DMV (Dual Mode Vehicle)
JR北海道が開発した道路と線路の両用車。マイクロバスを改造し、車体に格納された鉄の車輪を出し入れして道路と線路を自由に行き来できる仕組みになっている。4月から北海道釧路線で営業運行が始まった。



神奈川
KANAGAWA

大型商業施設が相次ぎ開業

～横浜北部の人口増加に注目～

神奈川県内最大級の大型商業施設『ららぽーと横浜』が、横浜市北部の都筑区池辺町に3月15日開業した。同施設の半径10km圏内は、今年秋までに5施設がひしめく大型商業施設の出店ラッシュを迎える。

ららぽーと横浜は、三井不動産がNEC横浜事業所跡地に開業した。店舗面積は約93,000m²。店舗数は284店、核テナントの大丸・イトーヨーカドー内の専門店を加えると約370店。年間来場者は約1,600万人、売上高は約350億円（イトーヨーカドーを除く）を見込む。同社は、隣接地に総戸数約700戸の分譲マンション『パークシティLaLa横浜』も建設している。ららぽーと横浜が基本商圈とする半径10km圏内（人口約250万人）は、これまで商業的には無風地帯だった。ところが、今年から一転して「大型店バトル」が繰り広げられることになりそうだ。

たまプラーザ駅周辺では、東急電鉄が既存のたまプラーザ東急SCを含む3ゾーンで構成する大型商業施設『たまプラーザテラス』を開発している。総店舗面積は約60,000m²。その第一弾として、大型スポーツ施設やペットショップなど4店舗が出店する『サウスプラザ』（約5,500m²）が、今年1月に開業した。2011年までに全面開業を目指す。

市営地下鉄センター北駅近くには、不動産・金融業のエスアイ・アセットサービスが4月に約73,000m²の大型商業施設『ノースポート・モール』を開業した。同施設の核テナントは、県内最大規模となるワーナー・マイカルのシネコン（約2,200席）。このほか、ホームセンター、ペ



年間来場者約1,600万人を見込む『ららぽーと横浜』

ビー用品の大型チェーン店、書店など約110店のテナントが入る。

都筑区の港北ニュータウン中央地区には、三菱地所が複合商業施設を建設中。延べ床面積約66,000m²で、温浴施設やフィットネスクラブが入り、今年夏の開業を目指す。

日産自動車の本社「里帰り」と絡めて注目されるのが、トヨタ自動車のショールームを兼ねた商業施設『トレッサ横浜』（約168,000m²）。港北区師岡町に今年秋と来年春の2期に分けて開業する。

この商圈の最大の魅力は、都筑・港北・青葉3区の人口増加率が高い伸びを示していることだ。3区の人口は、最近5年間で約8.0%（横浜市平均は3.9%）増えて約80万人となり、市全体の人口の約2割を占める。また、人口構成も30代前後のファミリー層が多く、一世帯あたりの所得水準も高い。さらに工場跡地などが多く、まとまった土地が比較的手ごろな価格で入手できることも、商業開発に拍車をかけているようだ。